

新規・継続等	新規	分野	補完的な道路の整備		事業番号	86	事業名	県単道路改築			
市町村名	栄村	ふりがな 箇所名	(一)長瀬横倉(停)線		事業年度 (完了年度は見込み)	H23年度～		H27年度			
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路拡幅工 L=1,500m W=4.0(6.0)m					H22年度末事業進捗率	0%			
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%			
	H23年度実施内容	用地測量、用地補償 1式					用地補償費ベース	0%			
	事業費計(千円)	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残					
	財源内訳	国庫支出金	300,000	0	0	25,000	300,000				
	その他										
	県債	270,000	0	0	22,500	270,000					
	一般財源	30,000	0	0	2,500	30,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価				部	政策評価課			
						ランク	評点	ランク	評点		
	必要性 (30)	計画交通量	4,000台/日以上	1,500台以上～4,000台/日未満	1,500台未満			0		0	
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある				5		5	
		ネットワーク (道路網)	バス路線である	駅やICなどに通じるまたは役場と交通結節点や支所などを結ぶ路線	A及びBに該当しない				5		5
			ボトルネック箇所	ボトルネック箇所でない					4	B	4
		各事業特有の必要性(安全の確保)	観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない					2		2
			4.0m未満又は30m未満又は8%以上(幅員、半径、勾配)	4.0m以上5.5m未満(幅員)	5.5m以上(幅員)				6		6
		他事業との関連	歩道未整備区間に歩道を設置	歩道はあるが不十分であるものを再整備	歩道整備無し				0		0
			河川改修、新幹線、高速道などの事業に関連して実施						0		0
	小計							22		22	
	重要性 (10)	設計上の環境配慮	環境配慮がされ確実性が高い	環境配慮がされているが確実性が低い	環境配慮をしていない			A	3	A	3
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(2個以上)	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(1個以上)	特別な位置づけはない				5		5
		小計							8		8
	効率性 (20)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上	B/C 1.0～1.5未満	B/C 1.0未満				5		5
		事業効果の早期発現	事業年数 3年以内	事業年数 4年～5年以内	事業年数 6年以上			A	5	A	5
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない				7		7
		小計							17		17
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない			A	10	A	10
		各事業特有の緊急性(医療・福祉・教育)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に係らない道路				6		6
		小計							16		16
	計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない				6		6
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない			B	3	B	3
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない				4		4
		小計							13		13
費用対効果(B/C)		2.5	評価の合計				A	76	A	76	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は(国)117号及びJR横倉駅を結ぶ一般県道で、沿線には集落が点在し、定期バスの運行等住民にとって重要な路線である。当区間は特に急峻な場所で幅員狭小、急勾配のため冬期の交通が危険であり、早期に安全を確保する必要がある。									
	地域からの要望経緯	地形が急峻で幅員狭小、急勾配のため、早期の冬期交通の危険解消の要望が強い。(H22年10月27日に地元期成同盟会より部長要望)									
	事業説明等の経緯	当初はバイパス計画で地元説明を行ってきたが、財政的及び早期の冬期交通の危険解消のため1.5車線改良に計画変更することについて平成22年10月6日に説明し、了解を得ている。									
	環境・景観への配慮項目	関係自治体や住民の皆様などの御意見を取り入れるながら環境に配慮した事業を行う、環境配慮制度を実施する。土羽構造、カゴ枠等による緑化を図り環境へ配慮する。また極力、現道を有効に活用して改良する。									
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし									
特記事項	地元の要望が強くまた、地権者の協力体制ができています。										
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	重要な生活道路であり、スリップ事故も多発していて危険なため、ローカルルールを適用しH23年度より事業化したい。				政策評価課	重要性、緊急性が認められる。					